

14 神奈川	相模原協同病院	相模原市
14 神奈川	県立足柄上病院	松田町
15 新潟	県立新発田病院	新発田市
15 新潟	新潟市民病院	新潟市
15 新潟	長岡赤十字病院	長岡市
15 新潟	県立六日町病院	六日町
15 新潟	県立中央病院	上越市
15 新潟	佐渡総合病院	金井町
16 富山	富山市立富山市民病院	富山市
16 富山	高岡市民病院	高岡市
16 富山	黒部市民病院	黒部市
16 富山	市立砺波総合病院	砺波市
17 石川	小松市民病院	小松市
17 石川	金沢市立病院	金沢市
17 石川	公立能登総合病院	七尾市
17 石川	市立輪島病院	輪島市
18 福井	福井県立病院	福井市
18 福井	福井赤十字病院	福井市
18 福井	福井社会保険病院	勝山市
18 福井	公立丹南病院	鯖江市
18 福井	市立敦賀病院	敦賀市
18 福井	公立小浜病院	小浜市
19 山梨	市立甲府病院	甲府市
19 山梨	(財)山梨厚生会山梨厚生病院	山梨市
19 山梨	社会保険鯉沢病院	南巨摩郡
19 山梨	長坂町外2町1ヶ村病院組合立山梨甲陽病院	長坂町
19 山梨	国保富士吉田市立病院	富士吉田市
19 山梨	大月市立中央病院	大月市
20 長野	長野県厚生農業協同組合連合会佐久総合病院	南佐久郡白田町
20 長野	市立岡谷病院	岡谷市
20 長野	伊那市営伊那中央総合病院	伊那市
20 長野	飯田市立病院	飯田市
20 長野	県立木曾病院	木曾郡木曾福島町
20 長野	波田総合病院	東筑摩郡波田町

20 長野	市立大町総合病院	大町市
20 長野	長野県厚生農業協同組合連合会長野松代総合病院	長野市
20 長野	長野県厚生農業協同組合連合会北信総合病院	中野市
21 岐阜	岐阜赤十字病院	岐阜市
21 岐阜	大垣市民病院	大垣市
21 岐阜	岐阜県厚生農業協同組合連合会総合病院中濃病院	関市
21 岐阜	岐阜県厚生農業協同組合連合会総合病院久美愛病院	高山市
22 静岡	裾野赤十字病院	裾野市
22 静岡	富士市立中央病院	富士市
22 静岡	共立蒲原総合病院	富士川町
22 静岡	市立静岡病院	静岡市
22 静岡	市立島田市民病院	島田市
22 静岡	市立県西部浜松医療センター	浜松市
23 愛知	名古屋市立東市民病院	名古屋市
23 愛知	公立陶生病院	瀬戸市
23 愛知	愛知県立尾張病院	一宮市
23 愛知	春日井市民病院	春日井市
23 愛知	知多厚生病院	美浜町
23 愛知	県立愛知病院	岡崎市
23 愛知	豊田地域医療センター	豊田市
23 愛知	豊橋市民病院	豊橋市
24 三重	市立四日市中央病院	四日市市
24 三重	三重県立総合医療センター	四日市市
24 三重	岡波総合病院	上野市
24 三重	山田赤十字病院	度会郡
24 三重	紀南病院	御浜町
25 滋賀	大津市民病院	大津市
25 滋賀	済生会滋賀県病院	栗東町
25 滋賀	国保病院組合公立甲賀病院	水口町
25 滋賀	近江八幡市民病院	近江八幡市
25 滋賀	財団法人豊郷病院	豊郷町
25 滋賀	長浜赤十字病院	長浜市
25 滋賀	公立高島総合病院	高島町
26 京都	府立与謝の海病院	岩滝町

26 京 都	福知山市民病院	福知山市
26 京 都	公立南丹病院	八木町
26 京 都	京都市立病院	京都市
26 京 都	公立山城病院	木津町
27 大 阪	市立豊中病院	豊中市
27 大 阪	市立枚方市民病院	枚方市
27 大 阪	大阪市立総合医療センター	大阪市
27 大 阪	市立堺病院	堺市
27 大 阪	市立泉佐野病院	泉佐野市
28 兵 庫	神戸市立中央市民病院	神戸市
28 兵 庫	加古川市民病院	加古川市
28 兵 庫	市立加西病院	加西市
28 兵 庫	赤穂市民病院	赤穂市
28 兵 庫	公立豊岡病院	豊岡市
28 兵 庫	公立八鹿病院	八鹿町
28 兵 庫	柏原赤十字病院	柏原町
28 兵 庫	県立淡路病院	洲本市
29 奈 良	大倭病院	奈良市
29 奈 良	奈良県立医科大学附属病院	橿原市
30 和歌山	和歌山市城南病院	和歌山市
30 和歌山	和歌山県立医科大学附属病院紀北分院	かつらぎ町
30 和歌山	公立那賀病院	那賀郡打田町
30 和歌山	有田市立病院	有田市
30 和歌山	国保日高総合病院	御坊市
30 和歌山	総合病院新宮市立市民病院	新宮市
31 鳥 取	県立中央病院	鳥取市
31 鳥 取	県立厚生病院	倉吉市
31 鳥 取	済生会境港総合病院	境港市
32 島 根	松江市立病院	松江市
32 島 根	県立中央病院	出雲市
32 島 根	大田市立病院	大田市
32 島 根	益田赤十字病院	益田市
33 岡 山	岡山市立岡山市民病院	岡山市
33 岡 山	倉敷中央病院	倉敷市

33 岡 山	津山中央病院	津山市
34 広 島	広島市立舟入病院	広島市
34 広 島	国立福山病院	福山市
35 山 口	社会保険徳山中央病院	徳山市
35 山 口	県立中央病院	防府市
35 山 口	下関市立中央病院	下関市
35 山 口	厚生連長門総合病院	長門市
36 徳 島	国立徳島大学医学部附属病院	徳島市
36 徳 島	県立海部病院	海部郡牟岐町
36 徳 島	県立三好病院	三好郡池田町
37 香 川	組合立大川総合病院	大川郡寒川町
37 香 川	町立内海病院	小豆郡内海町
37 香 川	高松市民病院	高松市
37 香 川	組合立三豊総合病院	三豊郡豊浜町
38 愛 媛	松山赤十字病院	松山市
38 愛 媛	県立中央病院	松山市
38 愛 媛	県立伊予三島病院	伊予三島市
38 愛 媛	西条中央病院	西条市
38 愛 媛	県立新居浜病院	新居浜市
38 愛 媛	今治市医師会市民病院	今治市
38 愛 媛	市立八幡浜総合病院	八幡浜市
38 愛 媛	町立宇和病院	宇和町
38 愛 媛	市立宇和島病院	宇和島市
39 高 知	高知市立市民病院	高知市
39 高 知	高知県立幡多けんみん病院	宿毛市
40 福 岡	北九州市立医療センター	北九州市
40 福 岡	福岡市立こども病院・感染症センター	福岡市
40 福 岡	田川市立病院	田川市
40 福 岡	久留米大学病院	久留米市
41 佐 賀	佐賀県立病院好生館	佐賀市
41 佐 賀	国立療養所東佐賀病院	中原町
41 佐 賀	唐津赤十字病院	唐津市
41 佐 賀	伊万里市立市民病院	伊万里市
41 佐 賀	国立嬉野病院	嬉野町

42 長 崎	長崎市立成人病センター	長崎市
42 長 崎	佐世保市立総合病院	佐世保市
42 長 崎	大村市立病院	大村市
42 長 崎	長崎県離島医療圏組合五島中央病院	福江市
42 長 崎	長崎県離島医療圏組合上五島病院	上五島町
42 長 崎	長崎県離島医療圏組合中対馬病院	美津島町
42 長 崎	壱岐広域圏町村組合壱岐公立病院	郷ノ浦町
43 熊 本	熊本市立熊本市民病院	熊本市
43 熊 本	荒尾市立荒尾市民病院	荒尾市
43 熊 本	山鹿市立病院	山鹿市
43 熊 本	阿蘇町立阿蘇中央病院	阿蘇町
43 熊 本	水俣市立総合医療センター	水俣市
43 熊 本	健康保険人吉総合病院	人吉市
43 熊 本	菊池郡市医師会立病院	菊池市
43 熊 本	健康保険八代総合病院	八代市
43 熊 本	健康保険天草中央総合病院	本渡市
44 大 分	東国東広域国保総合病院	安岐町
44 大 分	大分県立病院	大分市
44 大 分	臼杵医師会立コスモス病院	臼杵市
44 大 分	健康保険南海病院	佐伯市
44 大 分	緒方町国保総合病院	緒方町
44 大 分	大分県済生会日田病院	日田市
44 大 分	厚生連鶴見病院	別府市
44 大 分	宇佐高田医師会病院	宇佐市
45 宮 崎	県立宮崎病院	宮崎市
45 宮 崎	県立日南病院	日南市
45 宮 崎	八日会藤元早鈴病院	都城市
45 宮 崎	小林市立市民病院	小林市
45 宮 崎	都農町国保病院	都農町
45 宮 崎	済生会日向病院	門川町
45 宮 崎	県立延岡病院	延岡市
46 鹿 児 島	鹿児島市立病院	鹿児島市
46 鹿 児 島	国立指宿病院	指宿町
46 鹿 児 島	県立薩南病院	加世田市

46 鹿児島	出水市立病院	出水市
46 鹿児島	隼人町立医師会医療センター	隼人市
46 鹿児島	県立大島病院	名瀬市
47 沖縄	県立北部病院	名護市
47 沖縄	県立中部病院	具志川市
47 沖縄	県立那覇病院	那覇市
47 沖縄	県立南部病院	糸満市
47 沖縄	県立宮古病院	平良市
47 沖縄	県立八重山病院	石垣市

BWC備蓄要ワケチンリスト

生物兵器対策として備蓄が必要と思われるワクチン・抗毒素類

疾患名	一般名	商品名	治療・検査薬・予防薬の区分	薬法の承認の有無	国内手先	外国手先	1000人分を備蓄したときの必要量	1本の概算	1000人分を備蓄したときの必要金額	特記事項
ポリオ	ポリオワクチン		予防薬	○	(財)日本赤十字研究所 化血研、ウエルアイト、 日本製薬、アベンティス が輸入		3,000	24,000	72,000,000	市販品として入手可 輸入市販品を入手可
破傷風	破傷風抗血清		治療薬	○	国有備蓄ワクチン					市販品及び国有品を入手可
コレラ	コレラワクチン		予防薬	○	国有備蓄ワクチン					国有品を入手可
天然痘	痘瘡ワクチン		予防薬	○	国有備蓄ワクチン					国有品を入手可
ジフテリア	ジフテリア抗毒素		治療薬	○	国有備蓄ワクチン					国有品を入手可
ガスエネ	ガスエネ抗毒素		治療薬	○	国有備蓄ワクチン					国有品を入手可
ボツリヌス	ボツリヌス抗毒素		治療薬	○	国有備蓄ワクチン					国有品を入手可
ペスト	ペストワクチン		予防薬	×	感染研で製造					感染研製造品が入手可
黄熱	黄熱ワクチン	YF-VAX	予防薬	×	武田薬品が輸入。検 疫所で接種可能	パスツール(仏)	200vials (5人分/vial)	542,750		検疫所で入手可
ヤマカガシ	ヤマカガシ抗毒素		治療薬	×	無し	無し	5,000	不明		不明 研究班試験製造品が入手可
0-157	ペロ毒素抗毒素		治療薬	×	無し	無し	5,000	不明		不明 研究班試験製造品が入手可
ワイル病	ワイル病抗血清		治療薬	○	無し	無し				国内では入手不可能
ロタウイルス	ロタウイルスワクチン		予防薬	×	無し	無し				国内では入手不可能
髄膜炎	髄膜炎菌ワクチン		予防薬	×	無し	無し				国内では入手不可能
狂犬病	狂犬病免疫グロブリン		治療薬	×	無し					国内では不可能
チフス	チフスワクチン		治療薬	×	Cutter Biological (a division of Miles Inc.)					国内では不可能
ダニ媒介脳炎	ダニ媒介脳炎ワクチン		予防薬	×	パスツール(仏) パスツール(仏)					国内では不可能、研究課より パクスターに開発を要請中 P.O. Box 1630 35006 Marburg, Germany 国内では不可能 国内では不可能 国内では不可能 国内では不可能 国内では不可能 国内では不可能 国内では不可能 国内では不可能
炭疽	炭疽ワクチン		予防薬	×	無し					国内では不可能
Hib	HIBワクチン		予防薬	×	無し					国内では不可能
コブラ	コブラ抗毒素		治療薬	×	無し					国内では不可能
ハブクラゲ	ハブクラゲ抗毒素		治療薬	×	無し					国内では不可能
サソリ	サソリ抗毒素		治療薬	×	無し					国内では不可能
海ヘビ	海ヘビ抗毒素		治療薬	×	無し					国内では不可能
毒グモ	毒グモ抗毒素		治療薬	×	無し					国内では不可能
毒蛇	毒蛇抗毒素		治療薬	×	無し					国内では不可能

NBCテロ等に備え備蓄すべき医薬品、検査薬のリスト

想定される疾患 (感染症)名	感染症法上 の分類	治療薬品名(薬事法上の承認の有(○)、無(×))	他疾患へ の承認	国内入手可 能性	一定量確保 の可能性	特記事項
炭疽	4類感染症	テトラサイクリン(○)、ペニシリン(?)、シプロフロキサシン(×)、ドキシサイクリン(×)	○	○	○	
ブルセラ症	4類感染症	テトラサイクリン(○)、ドキシサイクリン(×)、リファンピシン(×)、オフロキサシン(×)	○	○	○	
コレラ	2類感染症	テトラサイクリン(×)、シプロフロキサシン(×)、ドキシサイクリン(×)	○	○	○	
ボツリヌス	—	ボツリヌス抗毒素(○)	—	○	×	
天然痘	—	牛痘免疫グロブリンVIG(○)	—	○	×	
ペスト	1類感染症	ドキシサイクリン(×)、シプロフロキサシン(×)	○	○	○	
野兔病	—	テトラサイクリン(○)、ストレプトマイシン(○)、ゲンタマイシン(×)、クロラムフェニコール(○)	○	○	○	
Q熱	4類感染症	テトラサイクリン(×)、ドキシサイクリン(×)、ST号剤(?)、リファンピシン(×)	○	○	○	
ペネゼエラ馬脳炎	—	インターフェロン(×)	○	○	○	
腸チフス	2類感染症	クロラムフェニコール(○)、アンピシリン(×)	○	○	○	
黄熱病	4類感染症	対処療法(輸液、ヘパリン療法)	—	—	—	
リシン	—	胃洗浄、呼吸管理、対処療法	—	—	—	
エボラ・クリミア・コンゴ出血熱	1類感染症	リバビリン	×	○	○	C型肝炎治療の試験中。泉佐野市立病院に約50名分備蓄(H12年度中)。
T2マイコトキシン	—	活性炭	—	—	—	

健康危機管理関連情報サイト

国内外の健康危機管理関連情報が以下のサイトに掲載されていますのでご利用ください。

○健康危機管理関連情報ホームページ

<http://www.nihs.go.jp/c-hazard/index.html>

○上記ホームページ上の健康危機管理に関する検索エンジン

<http://www.nihs.go.jp/c-hazard/index.html#search>

○厚生科学研究で行われた化学剤に関する情報

<http://www.nihs.go.jp/c-hazard/info-jpn/bc-info/index.html>

防護と生物化学兵器使用の可能性についての情報

<http://www.stimson.org/cwc/terror.htm>

Responding to the deliberate use of biological agents and chemicals as weapons.

http://www.who.int/emc/deliberate_epi.html

○国立感染症研究所感染症情報センターホームページ

I DWR (感染症発生動向調査週報)

感染症の話 炭疽 1999年46週(第33号)

天然痘 2001年40週(第40号)

<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

○日本医師会ホームページ

米国における同時多発テロ事件に関連して

・炭疽(「感染症の診断・治療ガイドライン

(厚生省保健医療局結核感染症課、日本医師会感染症危機管理対策室)」より抜粋)(PDF)

- ・ バイオテロリズムの脅威－生物兵器(炭疽菌)によるテロリズム－
(10/11 一部加筆・修正) <http://www.med.or.jp/etc/terro.html>

○厚生労働省ホームページ

動物由来感染症を知っていますか？

- ・ 中近東 → 炭疽

http://www.forth.go.jp/mhlw/animal/page_h/h07.html

○動物衛生研究所九州支所ホームページ

臨床細菌研究室

<http://www.sat.affrc.go.jp/saikin/saikin.htm>

○CDC (Centers for Disease Control and Prevention) のホームページ

炭疽

- ・ Facts about: Anthrax, Botulism, Pneumonic Plague, Smallpox

<http://www.bt.cdc.gov/>

- ・ Disease Information (Anthrax)

http://www.cdc.gov/ncidod/dbmd/diseaseinfo/anthrax_g.htm

天然痘

- ・ Facts about: Anthrax, Botulism, Pneumonic Plague, Smallpox

<http://www.bt.cdc.gov/>

- ・ Disease Information (Anthrax)

http://www.cdc.gov/ncidod/dbmd/diseaseinfo/anthrax_g.htm

○WHOのホームページ

炭疽

- WHO/EMC/ZDI/98.6

Guidelines for the Surveillance and Control of Anthrax in Humans and Animals

http://www.who.int/emc-documents/zoonoses/docs/whoemczdi986_nofigs.html

- RATIONALE FOR SURVEILLANCE & RECOMMENDED CASE DEFINITION etc

<http://www.who.int/emc-documents/surveillance/docs/whoedscsr992.html/02Anthrax.htm>

天然痘

- WHO/EMC/ZDI/98.6

Guidelines for the Surveillance and Control of Anthrax in Humans and Animals

http://www.who.int/emc-documents/zoonoses/docs/whoemczdi986_nofigs.html

- RATIONALE FOR SURVEILLANCE & RECOMMENDED CASE DEFINITION etc

<http://www.who.int/emc-documents/surveillance/docs/whoedscsr992.html/02Anthrax.htm>

「天然痘アウトブレイク (Cold Summer)」

シミュレーションと対応のため
のツールキット

厚生科学研究研究費補助金

(新興・再興感染症研究事業)

大規模感染症発生時の緊急対応の

あり方に関する研究班

はじめに	142
1 シナリオ	143
(1) 文章編	143
(2) 時系列編	146
2 ファクトシート	150
3 対応ツールキット	
I 診断と検査	154
II 医療	159
III 行政対応	161
IV 予防	165
V 広報	170

はじめに

この「天然痘アウトブレイク（Cold Summer）」におけるシミュレーションは、天然痘によるバイオテロ対応を研究班として検討する際の出発点として作成したものであり、種々の事前対応を検討するトリガーとしての役割を担うものである。従って、シナリオの一つ一つの事象に注目するものではなく、シナリオに対する対応について注目していただきたい。

また、共通の医学的知見に基づいた論議が深められ、整理しやすくなるようファクトシートも作成し、さらに5項目に分けたここの対応、すなわち診断と検査、医療、行政対応、予防、広報を具体的に分かり易く解説し、シミュレーションのシナリオが経時的に把握できるよう、5項目に分けてタイムテーブルも作成した。

この対応ツールキットについては、テロが発生した場合のツールにして頂くよう、個々の項目を切り取りやすく工夫した。

1 シナリオ

このシナリオは、天然痘によるバイオテロ対応を検討する際の出発点として作成したものであり、種々の事前対応を検討するトリガーとしての役割を担うものである。従って、シナリオの一つ一つの事象に注目するものではなく、シナリオに対する対応について注目していただきたい。

シミュレーションシナリオ： 戦慄の夏（Cold Summer）

（1）文章編

2002年7月12日のPM8：15、「重症の水痘」の診断のもと12歳の男児が近医から横浜市内の公的病院に紹介されて来院した。救急外来で診察した当直医は、患者の症状が重篤そうであったことと、この病院が感染症法による第二種感染症指定医療機関であることから取り合えず、感染症病棟に入院させ経過を見ることとした。

7月13日 AM10：30、感染症科医長を兼ねる小児科医長が診察したところ、水痘の形が「普通ではない」と考えたが、点滴・酸素投与等で経過をみる。

7月13日 AM11：00、詳細な検査を行える機関を紹介してもらうべく、保健所に検体受け入れ機関の照会を行った。地方衛生研究所と国立感染症研究所を紹介された。

7月13日 PM1：30、それぞれにコンタクトをとり、水泡液を採取した。採取方法や搬送方法の指示を受けたが、現場が混乱していたため、採取および搬送に苦労した。

7月13日 PM2：45、感染症科医長は患者の状態が悪化する方向なので、天然痘の疑いが否定できないと考え、念の為、医療スタッフに厳密な感染防御措置をとらせることとした。この措置は、医療スタッフに動揺を与え、この日の夕方には「ものすごい感染症がうちの病院にいる」との風評が広まった。

7月13日 PM5：10、地元新聞社から病院長に電話取材あり、「なにも申し上げることは無い」と言ったため、隠しているのではないかとの疑念を記者は持つ。

地元TV局はPM7:00のニュースで病院前から実況中継をし、厚生労働省、県庁、市役所にメディアからの照会が殺到した。

7月13日PM11:40、国立感染症研究所から厚生労働省に第一報、「搬送された検体の搬送条件が悪く断定するのは困難。しかし、検体中に variola virus 様のものを認める。天然痘を疑い精査開始」とのことだった。厚生労働省では、病院、県庁、市役所に同時にこの情報を伝えるとともに、メディア対応に苦慮。

7月14日AM7:00、メディアは「わが国で半世紀ぶりの天然痘患者発生か？」一色。

7月14日AM8:30、厚生労働省は、横浜市内の医療機関に同様な重症患者がいないか調査指示し、同時に感染症研究所感染症情報センターに、最近の水痘の発生動向精査を依頼した。

7月14日PM1:12、横浜市から厚生労働省に回答あり、「横浜市内に5例の同様の患者あり。全員、青少年」とのことだった。感染症情報センターからは、今年の水痘が流行しており、横浜市のデータもその意味では特に問題ないとの回答。

7月14日PM4:40、国立感染症研究所から続報。「PCRにて天然痘を診断した。わが国にはP4ラボが稼動していないため、CDCでウイルスの増殖検査を依頼したい。本日の米国行き航空機は全て出発済みなので、なんとか検体を迅速に運ぶ段取りを検討願いたい。」。

7月14日夕刻頃からマスコミの報道加熱。また、情報の信憑性も疑問な内容が相当あり。厚生労働省は緊急対応をまとめ公表。その公表内容、意思決定プロセスで相当の混乱あり。あわせ、全都道府県に実態把握のための調査と患者（疑いを含む）の聞き取り調査と報告を指示。

7月15日。首都圏を中心に1都1府5県から同様な患者（20名）の発生報告あった。

共通事項は、6月30日横浜で行われたワールドカップサッカー最終戦の観客であったことが判明した。厚生労働省では、直ちに、警察庁へ連絡し、内閣は、悪意ある意図による天然痘ウイルス犯罪として対応することと決定。厚生労働省は厚生科学審議会感染症部会を緊急招集。感染症法による対応、予防接種計画などを諮問し、即日答申。「天然痘を感染症法上と位置づけて、まん延の防止と患者感染者の医療に万全を期せ。天然痘ワクチンを予防接種法上と位置づけて対応せよ。」 但し、具体的にどうするという事は審議未了となった。

7月16日。マスコミ、内閣内で、厚生労働省の対応への批判が高まる。患者報告、

新たに関西地区の2県、北海道を含め、1都1道1府8県に拡大。初の死亡例報告。厚生労働省では、天然痘を1類感染症並として、交通遮断など1類に規定された項目全項目の適応を決定した。

厚生労働省は管理下にある天然痘ワクチン250万人分を超法規的に接種することを決定した。接種方法は、患者発生都道府県の26歳以下の者に先着順に行う暫定方針を決定。しかし、一部有識者から、法的根拠があいまいで、人権保護上問題との指摘があった。一方で、非接種自治体では、ワクチン接種を求める暴力的な抗議デモも発生した。

7月17日。日本人旅行者(20歳の大学生)が中国で発症。国際問題化し、ただちに各国は日本出発・経由の旅客機の着陸を拒否。ワクチンストックのある国では一斉に国民への接種を開始。日本からのワクチン譲与要請に応える国はなかった。

7月18日。天然痘はパンデミックの様相を示す。

7月19日から25日 患者発生は20都道府県に広がりを見せた。しかし、厚生労働省の指導のもとに、輪状接種方式にて200万人にワクチン接種を開始し6日間で終了した。この時点での総患者数は数十万人に達していた。ワクチン接種と集中治療にもかかわらず、相当数の患者が死亡した。

全国的な発生個所の特徴として、都市部では一時期は感染症の広がりを見せたが、交通網の遮断などにより終息に向かった。また山村部などでの発生は少なかった。

8月8日。新規天然痘感染症発生の報告が0件となる。

10月1日。厚生労働省より、新規天然痘感染症の最終発生より42日経過し、潜伏期間の2倍以上の時間を経過したため、天然痘 Out Break の終息を宣言した。

結果的に26歳以下人口3000万人を中心に、数十万人が罹患し、相当数の患者が死亡した。

	A	B	C	D	E	F	G
1	シミュレーションシナリオ(大規模感染症発生時対応)						
2							
3	時間経過		2002年7月12日	7月13日			
4			PM8:15	AM10:30	AM11:00	PM1:30	PM2:45
5	シナリオの流れ		「重症の水痘」の診断のもと、12歳の男児が横浜市内の公的病院に近医より紹介され来院				
6	診断と検査					水疱液を採取(採取方法や搬送方法の指示を受けたが、現場が混乱していたため、採取及び搬送に苦労した)	
7	医療:全体的な流れと患者状況		1例目、横浜市内の病院に水痘様患者として、やや重篤な状態で、感染症病棟に入院		初発例入院病院での対外的な対応も含めた体制が開始される。保健所、院内での検査、機体受入機関の照会		まだほとんどの施設で認識なし、一部保健所から情報を得た施設あり
8		患者1例発病院の対応	(昼間来院するも症状軽く、帰宅、その後悪化して再来)、感染症病棟に入院させ経過観察(症状:重篤) まだ認識ほとんどなし	小児科医長(感染症科医長兼)水痘の形が「普通ではない」と考えたが、点滴・酸素投与等で経過をみる。	①院内での検討会議、②保健所へ届け出、③感染症を中心に院内での各種検査、④その後の保健所への詳細な検査目的での検体の紹介	院内でのその後の検討を続けた。保存的治療で一時的に様態安定化。	その結果も含め、感染症科医長は天然痘の疑いが否定できないと考える(患者の状態が悪化する方法のため)
9		その他の医療施設一般での対応	まだ認識なし	まだ認識なし	まだ認識なし	まだ認識なし	
10	行政対応				保健所より地方衛生研究所と国立感染症研究所を紹介		
11							
12	予防						医療スタッフに厳密な感染防御措置をとらせることとする(医療スタッフに動揺を与えた)
13	広報						
14							

H	I	J	K	L	M
			7月14日		
PM5:10	PM7:00	PM11:40	AM7:00	AM8:30	PM1:12
		国立感染症研究所から厚生労働省に「搬送された検体の搬送条件が悪く断定困難。だが検体中にvariola virus様のものを認め、天然痘を疑い精査開始」との第一報			感染症情報センターからは、今年の水痘が流行しており、横浜市のデータもその意味では特に問題ないとの回答
保健所、市、県庁、厚生労働省との連絡、密になる。家族にも説明の必要(重篤な感染症の可能性を伝える)。	行政側が患者の詳細な動向調査にとりかかるのに対応し、周辺の医療連携をしている中小病院、診療所へも連絡。		1例目の状態再悪化傾向あり。		1例目は、専門家の診察結果から、天然痘の疑いが更に強まる(ほぼ確定)。患者の状態は更に悪化。
①保健所へ再度相談、②市、県、③厚生労働省、④医師会、へ連絡:同様の症例がないか?、⑤家族へもやや重篤な可能性のあることを説明	①患者の詳細な動向調査を行う。②周辺の医療連携をしている中小病院、診療所へも連絡。③治療担当者は、厳密なstandard precaution	①周辺医療施設から、同様の症例の報告が少数くるが、水痘との鑑別困難、②専門家への相談(厚生労働省経由で)	①状態悪化更に高度、②集中治療室、空調管理、③天然痘疑いが、国立感染症研究所から伝達。	天然痘の診断の専門家の派遣要請、更に周辺医療施設から、同様の症状の症例の報告がくる。災害対策本部設置、	①専門家が来院、②診察結果から、天然痘の疑いが更に強まる(ほぼ確定)。③患者の状態は更に悪化。④院内で重症感染症蔓延が伝わり始まる、④家族対策室設置、院内感染蔓延防止対策
一部施設では重篤な水痘症例との情報をえるが、動かず	一部施設で、情報収集を自発的に開始、	①一部施設からの情報収集結果を保健所等へ連絡、②多くの施設(周辺)で情報収集開始	①一部施設で、感染拡大防止対策を検討開始、	①一部施設で、患者選り分け(診察拒否等)を開始、②一部施設で患者隔離、医薬品確認等開始、③多くの施設は、まだ対策開始せず	①多くの施設で対策を検討開始
	厚生労働省、県庁、市役所にメディアからの照会が殺到	厚生労働省:病院、県庁、市役所に同時に情報を伝えるとともに、メディア対応に苦慮		厚生労働省:横浜市内の医療機関に同様な重症患者がいないか調査の指示。 同時に感染症研究所感染症情報センターに最近の水痘の発生動向精査を依頼	横浜市から厚生労働省に回答「横浜市内に5例の同様の患者発生。全員青少年」
地元新聞社から病院長に電話取材。「何も申し上げることはない」とのコメントに疑念を持つ	地元TV局はニュースで病院前から実況中継		わが国で半世紀ぶりの天然痘患者発生か?報道一色		

	N	O	P	Q
1				
2				
3		7月15日		7月16日
4	PM4:40			
5		首都圏を中心に1都1府5県より同様な患者(20名)の発生報告		患者報告:新たに関西地区の2件、北海道を含め、1都1府8件に拡大
6	国立感染症研究所から統報「PCRにて天然痘を診断した。CDCでウイルスの増殖検査を依頼したい。本日の米国行き航空機は全て出発済みなので、何とか機体を迅速に運ぶ段取りを検討願いたい」			
7	1例目収容病院の院内の体制を大幅変更を余儀なくされる、病院全体がパニックになり、退院患者激増。	国立感染症研究所からの報告を受け、更に患者隔離を徹底する(同フロアの患者は全て別のフロアへ移すなど)。		初の死亡例報告
8	①院内の体制を大幅変更、収容病棟(集中治療室)の他の患者を全て移し、空にする。②医療従事者、次いで入院患者・家族にも天然痘の可能性を伝達。③病院全体がパニックになったため、收拾困難、小児科病棟・産科病棟中心に入院患者に退院を勧め	①同フロアの患者は全て別のフロアへ移す、②他の病院からも重篤な状態の全身発疹患者発生連絡と治療の相談を受ける、③マスコミ・院外からの家族の問い合わせ:回答は延期	医療従事者、他の患者、患者家族の既往歴(ワクチン歴等)を詳細に聴取する。若年者は、帰宅を勧める。	①患者死亡、②しかるべきところへ連絡、③家族への説明、④マスコミ対応、⑤
9	①多くの施設で、少数の専用収容室(集中治療室)を決定、②医療従事者には、若干の注意を喚起	①院内の体制を変更する施設も散見、	①院内の体制を変更、収容病棟(集中治療室)の他の患者を全て移し、空にする施設が増加。②入院患者・家族にも天然痘の可能性を伝達。③病院全体がパニックになり、押さえるのに難渋、④小児科病棟・産科病棟中心に退院患者激増。	①他の病院からも重篤な状態の全身発疹患者発生連絡をやりとりする、③マスコミ・院外からの家族の問い合わせが始まる:回答は困難
10	厚生労働省:緊急対応をまとめ公表。その内容、意思決定プロセスで相当の混乱有り	厚生労働省:直ちに警察庁へ連絡。	厚生労働省:厚生科学審議会感染症部会を緊急招集	
11	全国都道府県に実態把握のための調査と患者(疑いを含む)の聞き取り調査と報告を指示	内閣は悪意ある意図による天然痘ウイルス犯罪として対応することと決定。	厚生労働省:感染症法による対応、予防接種計画などを諮問し、即日答申	
12			厚生科学審議会感染症部会より答申「天然痘を感染症法上と位置付けて、蔓延の防止と患者感染者の医療に万全を期せ。天然痘ワクチンを予防接種法上と位置付けて対応せよ。」	
13	マスコミの報道加熱。情報の信憑性も疑問な内容多数。			厚生労働省の対応への批判が高まる
14				